

令和8年度 東京都立立川緑高等学校 学校経営計画

スクールミッション
<p>地域や関係機関との連携を密に、多様で柔軟な教育活動を展開し、生徒が学ぶ楽しさや意義を見出します。生徒の【個性】【居場所】【自立】を大切にしたキャリア教育を推進し、生徒が自信や意欲を身に付け、社会の一員として自らの力で未来を創り出すことができるよう育成します。</p>
教育目標
<p>【個性】自分らしさと他者の個性を大切にする 【居場所】目標に向かってチャレンジできる（心の）居場所をつくる 【自立】社会の一員として自立し、多様な人々と協働して未来を創り出す</p>
求める生徒像（Admission Policy）
<p>本校の特色を理解し、自分の夢や目標に向かってチャレンジしようとする生徒 ①日々の学びを大切にしようとする生徒 ②社会生活を送る上で必要なルールやマナーを身に付け、基本的な生活習慣を確立しようとする生徒 ③体験活動や地域連携をとおして、社会の一員として自立しようとする生徒 ④思いやりを大切に、互いに成長しようとする生徒</p>
中期的目標と方策
<p>I 学習指導 【目標】 生徒が「私らしく学べる」環境の実現</p> <p>【取組目標】 1 学ぶ楽しさや意義を見出す学びの実現 2 一人1台端末を活用した個別最適な学びの推進 3 授業評価の活用による授業改善</p> <p>【方策】 1 各教科・各科目において、生徒が学ぶ楽しさや意義を見出すことができる指導方法の工夫、教材開発・改善を行う。 2 授業におけるICT機器の活用やWeb学習の活用を図るとともに、NPO法人と連携した「校内別室指導事業」を活用し、個別最適な学びを組織的に支援する。 3 生徒及び教員による授業評価を活用した授業改善を行う。</p>
<p>II 進路指導 【目標】 「社会につながる学び」キャリア教育の推進による進路希望の実現</p> <p>【取組目標】 1 社会につながる学びによるキャリア教育の実践 2 生徒の進路希望の実現に向けた組織体制づくり</p> <p>【方策】 1 地域や関係機関と連携したインターンシップ及び社会体験活動等で、実践的・体験的な「学校外の学修」を展開する。 2 各種検定試験へのチャレンジを奨励し、幅広く単位認定することで、キャリアアップへの意欲と自信を高める。 3 キャリア教育計画に基づき、進路指導・探究部と年次が連携した取組を行う。特に、探究的な学習や東京グローバル人材育成指針に基づいた「使える英語」教育を組織的に実施し、生徒の幅広いキャリアアップを後押しする。</p>
<p>III 生活指導 【目標】 基本的生活習慣の確立と社会参画の意識及び公共の精神の醸成</p> <p>【取組目標】 1 基本的生活習慣の確立と自己決定意識の高揚 2 思いやりがあふれ、豊かな人間性を育む学校の実現 3 生徒が参画する学校生活・学校行事の充実</p> <p>【方策】 1 生徒の自己決定意識を高めつつ、生徒の生活習慣（挨拶、時間厳守、TPOに応じた服装等）の確立について、保護者や地域、関係機関と連携して指導する。 2 相互に思いやりの心もち、社会生活上のルールやマナーの意味を理解し、人としての在り方生き方を考え行動できる生徒を育成する。ボランティア活動を推奨するとともに、適切なSNS等の活用やいじめを絶対に許さない雰囲気づくりを全校体制で行う。 3 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づいた部活動や体育的 school 行事、地域や関係機関と連携した防災教室や交流行事において、生徒の参画意欲を高める取組を実現する。</p>

教育の方針（Curriculum Policy）
<p>多様で柔軟な参加型の教育活動と肯定的評価のもと、生徒が学ぶ楽しさや意義を見出し、主体的にチャレンジする精神を養います。 【個々の学びたい思いを支える】 ・基礎学力の定着と伸長を図るとともに、興味・関心や進路希望に応じて、自学自習の習慣を身に付けます。 ・少人数・習熟度別指導を行うとともに、デジタル技術を活用した個別最適な学びを進めます。 【安心して学べる環境の提供】 ・学校は、専門家による相談機能を充実させ、生徒が安心してチャレンジできる居場所づくりを提供します。 ・学校は、生徒一人ひとりの心に寄り添い、生徒が自身と相手を大切に、互いに成長できるようにします。 【社会につながる学びを支える】 ・全ての学習活動において、アウトプットを重視し、相手に分かりやすく伝えるコミュニケーション能力を伸ばします。 ・体験的な学習において、協働的な学びを進め、社会の一員として、自分らしい生き方を具体化します。</p>
卒業までに身に付ける力（Graduation Policy）
<p>正解のない社会の中で成長し続けるため、「本校のキャリア教育で育む4つの力」の育成を教育活動全体で推進していきます。 ①【人間関係形成能力】相手の考えや立場を理解し、自分の考えを正確に伝えることができる力 ②【自己理解・自己管理能力】自分自身の肯定的な理解に基づいて行動し、成長のために進んで学ぼうとする力 ③【課題対応能力】課題を発見・分析し、適切な計画を立てて、解決することができる力 ④【キャリアプランニング能力】様々な情報を適切に活用しながら、主体的に判断して将来を設計していく力</p>
令和8年度の重点目標（数値目標）と具体的方策
<p>【重点目標（数値目標）】 ・テーマ「生徒が学ぶ楽しさや意義を見出すことができる」に基づいた授業改善及び教材開発・改善（通年） ・プロジェクトチームによる「ゲーム概論」補助教材改訂（3月末）及び「新分野のデジタル教材」開発・活用（3月末） ・NPO法人との定例会（月1回）を活用した校内別室指導の利用状況の把握及び取組改善（通年） ・授業評価「生徒が学ぶ楽しさや意義を見出す」「デジタルとリアルの最適な組合せ」の設定（7月末、2月末）</p> <p>【具体的方策】 1 テーマに基づいた授業改善、教材開発・改善を行う。 2 デジタル技術を活用し、学び直しから発展的な学びまで、個別最適な学びを推進する。 3 全科目において、授業評価を実施し、授業改善に活用する。</p>
<p>【重点目標（数値目標）】 ・インターンシップ協力事業所（15ヶ所程度）生徒の履修（15名程度） ・社会体験活動の単位認定希望生徒の履修（10名程度） ・各種検定試験（論理言語力検定、英検、漢検、情報処理関係など）の受検者（のべ500名以上） ・学習成果発表会の企画・運営（3月）</p> <p>【具体的方策】 1 「総合的な探究の時間」「産業社会と人間」「人間と社会」「リテラシー」等を計画的に実施するとともに、改善を行う。 2 インターンシップや社会体験活動等を計画的に実施するとともに、「LMS実証事業モデル校」指定を活用しての改善を行う。 3 「キャリアノート」の活用・改善、計画的な探究的な学習の実施、「外部検定試験の活用」及び「AI活用の英語スピーキング力向上」指定校などの取組を推進する。</p>
<p>【重点目標（数値目標）】 ・生徒が企画・運営する学校生活・学校行事の実践（通年）、スポーツデイ（5月）や文化祭（11月）の実施 ・いじめの未然防止や適切なSNS等の活用に関する指導（通年）、セーフティ教室の実施（5月） ・ボランティア活動連携先（20ヶ所程度）単位認定希望生徒の履修（5名程度） ・避難訓練（年4回）、地域や関係機関と連携した防災教室の実施（年1回以上）</p> <p>【具体的方策】 1 新入生オリエンテーションや保護者会等の様々な機会、本校指導方針を浸透させるとともに、自己決定の機会を多く設ける。 2 いじめの総合対策、人権教育プログラム等に基づいた教員研修及び指導体制の構築を行う。 3 「自分たちの学校は自分たちでつくる」をスローガンに生徒が企画・運営する学校生活・学校行事を実現する。</p>

中期的目標と方策	
IV 心身の健康	
【目 標】	安心して学べる環境の提供と心身の健康づくりの推進
【取組目標】	1 「チャレンジサポートプラン（令和6年10月）」を踏まえた不登校・中途退学の未然防止や早期支援 2 専門家による相談機能の充実及びアセスメント活用と情報共有による生徒支援
【方 策】	1 生徒の居場所となる「校内居場所カフェ」及び「図書室」を円滑に運営し機能させる。 2 精神科医、S C（スクールカウンセラー）やY S W（ユースソーシャルワーカー）との連携による、生徒一人ひとりの的確なアセスメントを行う。 3 ケース会議の定期開催や事例研修会において、生徒情報の共有及び生徒理解の深化によりの確に支援するとともに、S O S の出し方に関する教育など、自他の生命を大切にす指導を確実に行う。 4 特別支援（発達障害も同様）に関する知識を共有し、個別に適切な対応体制を構築する。
V 広報活動	
【目 標】	本校の特色と取組について理解及び応募倍率の確保
【取組目標】	1 中学生・保護者等への情報発信の強化 2 本校の特色や取組の理解を図る広報活動
【方 策】	1 生徒の学校生活の様子を中心に、学校ホームページ更新を行い、中学生・保護者への情報発信を工夫し、本校の特色と取組について理解を得ていく。 2 生徒や保護者に魅力を発信するようなパンフレット等を検討する。 3 学校説明会を実施するとともに、地域の教育委員会等との連携により、広報活動の方法や内容を改善し、本校の特色や取組を周知していく。
VI 特別活動	
【目 標】	生徒の参画意識の高揚
【取組目標】	1 地域と連携した教育活動による社会性の育成・社会参加意識の高揚 2 感動体験・成功体験による自信と意欲の高まり
【方 策】	1 生徒よる主体的な運営の実施により、学校行事、部活動（生徒会活動）、ホームルーム活動、主権者教育を活性化する。 2 ボランティア活動、インターンシップ、社会体験活動等の「社会につながる学び」、多様性の理解事業、異文化交流等の社会につながる学びを推進して、生徒の社会性を育み、社会への参画意識を高揚させる。 3 学校行事や校内・校外の大会や成果発表会、「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」に基づいた部活動等で、感動体験・成功体験を味わわせることを重視して取り組む。
VII 学校経営・組織体制	
【目 標】	より良くしていこうとする「組織風土」づくり
【取組目標】	1 プロジェクトチームや委員会の活性化による企画調整会議の充実 2 経営企画室と一体となった組織的で業務効率良い体制づくり 3 実践的・体験的なOJTとOff-JTによる人材育成の推進 4 法規法令の遵守及びエビデンスに基づいた組織改善
【方 策】	1 プロジェクトチームや委員会でのきめ細かな検討を行い、企画調整会議を充実させる。 2 管理職が全教職員の毎月の在校時間を把握することで、ライフ・ワーク・バランスを推進する。 3 各種セミナー・研究会、教育機関視察、広報活動を活用し、OJTとOff-JTによる人材育成を行う。 4 学校経営計画を具現化する施設設備の管理・維持を確実にに行い、開校後の安定的な学校運営を行う。 5 自律経営推進予算や学校徴収金、生徒会予算を計画的に予算執行する。 6 高い倫理観をもった教職員集団と法規法令の遵守（服務事故ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立する。特に体罰や不適切な指導を絶対に生じさせない。） 7 学校運営連絡協議会からの助言、学校評価や各調査結果等に基づき、校務改善・組織体制の整理を行う。

令和8年度の重点目標（数値目標）と具体的方策	
【重点目標（数値目標）】	・組織的な教育相談体制の構築・改善（教育相談委員会4回実施） ・ケース会議（毎週）全体ケース会議（月1回）の実施 ・学校医（精神科医）との連携による組織的な対応力の向上（通年） ・特別支援及び発達障害に関する校内研修の企画・実施（年2回）
【具体的方策】	1 アセスメントに基づいた生徒対応の共有、家庭連絡及び面談等のルール作りを行う。 2 「校内居場所カフェ」及び「図書室」運営を継続的に改善し、クラス担任・S C・Y S W等との組織的な相談体制を構築する。 3 学校医（精神科医）との連携により、組織的な対応力の向上を図る。
【重点目標（数値目標）】	・学校ホームページの更新（60回以上）、学校案内の更新（7月末） ・中学生と保護者対象の参加・体験型の説明会等の企画・実施（年3回程度） ・学力による入学者選抜の応募倍率 1.5倍以上
【具体的方策】	1 学校ホームページの定期的な更新を行う。学校の特色を伝える魅力ある学校案内を作成する。 2 改善した学校見学会・学校説明会を計画的に実施する。 3 中学生と保護者対象の参加・体験型の説明会等を行う。
【重点目標（数値目標）】	・スポーツデイ（5月）、文化祭（10月）、学習成果発表会（3月）などに生徒の企画・運営を取り入れての円滑実施 ・地域や他校との交流行事の企画・実施（3月末までに） ・部活動の活性化（加入率60%以上）
【具体的方策】	1 生徒が企画・運営する学校行事について取組成果と課題分析を行う。 2 ボランティア活動、インターンシップ、多様性の理解事業、異文化交流等、関係機関や地域と連携した活動の企画・調整・改善を行う。
【重点目標（数値目標）】	・組織目標・役割分担・業務進行スケジュールの作成（通年・年2回確認） ・月45時間以上超過勤務の教職員0名（自己研鑽の時間を除く。）、年次有給休暇・夏季休暇の取得（全職員・年間20日以上） ・西部学校経営支援センター主催学校経営セミナー等や各種研究会への参加、教育機関視察（全教職員いずれか1回以上） ・服務事故0件（前年度0件）
【具体的方策】	1 組織目標・役割分担・業務進行スケジュールについて、統一様式を活用し、引継ぎ及び予算を意識した業務進行を行う。 2 プロジェクトチームを活用し、具体的な学校課題とその解決策を検討し実行する。また、各取組の成果検証と新たな改善を継続して行う。 3 管理職から、教職員の超過勤務状況を本人に毎月2回連絡し、超過勤務縮減の意識を高める。 4 教職員の各種セミナー・研究会への参加、教育機関視察を促進する。 5 日々の注意喚起や校内研修等により、法規法令の遵守の意識を向上する。